

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530657

研究課題名(和文) 多元化するアイデンティティと「多文化社会・日本」の構想

研究課題名(英文) Exploring multiple senses of belonging and imagining a multicultural Japanese society

研究代表者

河合 優子 (Kawai, Yuko)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：80384874

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：理論的文献やエスニック・マイノリティ当事者によるメディア発信を検討する中で、「日本人と外国人」という二項対立を乗り越え、構造的力関係を考慮しつつ多元的な帰属意識のあり方を理解する鍵概念としての「交錯」の重要性を認識した。韓国・台湾の研究者との2回の国際研究会でも、マジョリティの同質性を強調する支配的な言説がマイノリティの周縁化とつながっていることが共通主要課題の一つであることがわかった。聞き取り調査、フィールドワーク、メディア表象分析を通して、日本社会における「人種」、エスニシティ、国籍、ジェンダー、階級などが交錯する複雑な構造的力関係と多元的かつ混淆的な帰属意識を考察した。

研究成果の概要(英文)：Reviewing relevant theoretical literature and ethnic minorities' media self-representations, we adopted "koosaku," an expanded notion of intersectionality, as the central concept of this research project. "Koosaku," literally meaning "complex web," offers a useful perspective to challenge the binary opposition of the Japanese and the foreigner as well as highlight people's multiple senses of belonging without neglecting structural power relations. In two international research meetings with Korean and Taiwanese researchers, we reaffirmed the importance of "koosaku" to debunk the myth of national homogeneity, a common multicultural issue in the three societies. Conducting interviews, fieldwork, and media analysis, we investigated complex power relations in which race, ethnicity, nationality, gender, class, and others intersect and examined how such relations were constitutive of identities of people with various cultural backgrounds in Japanese society.

研究分野：異文化コミュニケーション論

キーワード：多文化社会

1. 研究開始当初の背景

「多文化共生」関連の研究、政策、言説においては、「日本人と外国人」の二項対立の図式を前提とし、「外国人」や「ニューカマー」に焦点があてられる一方、在日コリアンなどの「オールドカマー」や日本国籍と外国籍の両親を持つ人々、そして「日本人」という日本社会のマジョリティとの関係性が十分に検討されてきたとは言えないのではないかという問題意識から出発した。

2. 研究の目的

(1) 日本社会におけるエスニシティ、「人種」にかかわる文化的差異を持つ人々が、社会の周縁化の力学と日々交渉しながらどのような帰属意識を構築しているのかについて、聞き取り調査とメディア分析から考察する

(2) (1) から、日本社会がいかに多様な帰属意識と差異を持つ市民が共生する空間となっているのか、「日本人と外国人」という二項対立を乗り越え、「日本人」などの「人」という境界がすでにどのように多元化しているのかを考察することで、多様な差異が正当に承認および尊重される「多文化社会・日本」を構想する

3. 研究の方法

(1) 関連鍵概念に関する理論的文献と先行研究の整理と検討

(2) 聞き取り調査、フィールドワーク、メディア発信および表象の調査・分析

(3) 韓国・台湾の研究者と合同研究会を開催し、東アジアの多文化社会の現状と共通課題を把握

以上の3つの方法から、日本社会において文化的差異が正当に承認および尊重されるとともに、社会の構成市民として平等な取り扱いを保障することを社会で共有し実現していく多文化社会のための新たな視座の可能性を追求した。

4. 研究成果

(1) 定例研究会において、理論的文献と先行研究の整理・検討、そして当事者によるメディア表現の調査を行う中で、「日本人と外国人」という二項対立を乗り越え、「人種」、エスニシティ、文化をめぐる差異が関わる多元的な帰属意識のあり方を理解する鍵概念として、主にジェンダー研究で概念化が推し進められてきた「交差」(intersectionality) 概念を多文化社会の考察に応用することの重要性と有効性を認識した。「交差」とは、「人種」、エスニシティ、国籍、ジェンダー、階級、宗教などの複数の社会的カテゴリーが関わる構造的力関係、そして上記のような社会的カテゴリーに依拠するアイデンティティは、単独ではなく複数が絡まりあって作用していることをさす(例えば、Anthias, 2012; Yuval-Davis, 2011)。

(2) この概念により、不可視化されがちな、

社会的カテゴリーに依拠する集団の構築性・多様性・混濁性、そして個々の人々が日常において経験する複雑な構造的力関係を可視化することが可能になる。さらに、別々の集団に属していると思なされる人々の間の負の関係性も含めた「つながり」をより前景化させることもできる。

(3) 多文化共生や多文化主義に関する議論は、欧米の「移民国家」(カナダやオーストラリアなど)の事例が中心であることが多い。しかし、日本における多文化社会を考えるためには、共通する社会事情を抱える東アジア地域の事例を把握することがより有益である。24年度には韓国・延世大学、25年度には名古屋市のウィルあいちにおいて、韓国・台湾の研究者と国際研究会を開催して対話を深め、欧米とは異なる文脈における多文化社会の現状と課題を把握した。共通する主要課題の一つが、それぞれの社会におけるマジョリティの同質性を強調する支配的な言説が、多様な差異を持つ人々の周縁化につながっていることであった。ここからも、「人とそれ以外」という二項対立を乗り越える視点としての「交差」が有効であることを再確認した。

(4) 「交差」概念を本研究課題に応用するにあたり、当事者のアイデンティティや帰属意識だけでなく、メディア表象を含めた分析に応用するため、「交差」を「交錯」と表現し、「交差」とともに「分節化/接合 articulation」や「異種混濁性」という近接関連概念を含むものとして本研究課題の概念的軸として位置づけた。

(5) 本研究の参加者がフィールドワークや聞き取り調査を行った対象は、日本国籍の配偶者を持つ在日コリアン、平日は工場でも働きつつも、週末はメイクアップ講座を受講してブラジルの中間層としての意識を形成しようとする在日ブラジル人女性、JETプログラムで英語教育助手として英語圏(英国・米国)から来日し、そのまま定住している「恵まれた」外国人、インターナショナル・プレスクールで教員として働く在日フィリピン人女性、パキスタン人でムスリム人の夫を日本に残して、パキスタンで子どもをムスリムとして育てる日本人女性など多様である。分析をする中で、「人種」、エスニシティ、国籍、ジェンダー、階層、宗教などが交錯する複雑な構造的力関係と多元的かつ混濁的な帰属意識を浮き彫りにすることができた。メディア表象においても、例えば、単なる「在日ブラジル人」や「在日タイ人」の表象ではなく、彼ら彼女らと「日本人」の関係、ジェンダーや階級などの交錯が表象されているものがある一方、主流メディア表象においては、それが不可視化されたままである傾向があり、「日本人と外国人」の二項対立や「人」の境界の強調につながっていた。

(6) 「交錯」は、「日本人」や「〇〇人」、「自」集団と「他」集団という固定化された視点を

構造的力関係を踏まえつつ乗り越え、日本社会の多文化状況を可視化してくれる。「交錯」は、学術的概念としてだけにとどまらず、日本で前述したような意味での多文化社会を実現するために有効な基本的視点となりうるのではないか。「日本人」内部も「交錯」という視点から眺めることにより、ジェンダー、階級、地域等によりいかに多様であるかということに気づかせてくれると同時に、「外国人」「ニューカマー」「オールドカマー」「エスニックマイノリティ」「ハーフ」「ダブル」などと呼ばれる日本社会の多様な市民との「つながり」にも気づかせてくれる。学校や社会教育の場でどのようにこの「交錯」という視点を活用していくのが今後の課題の一つである。

<引用文献>

Anthias, Floya. (2012). Intersectional what?: Social divisions, intersectionality and levels of analysis. *Ethnicities*, 13(1), 3-19.

Yuval-Davis, Nira. (2011). *The politics of belonging: Intersectional contestations*. Los Angeles: Sage.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

Sachiko Horiguchi and Yuki Imoto. Fostering learning through unlearning institutional boundaries: A 'team ethnography' of a liminal intercultural space at a Japanese university, *Ethnography and Education*, 査読有, 10, 2015, 92-106
DOI:10.1080/17457823.2014.956134

[学会発表](計16件)

Masako Kudo, "Tabunka-kyosei" and multicultural families: Conceptualizing "diversity" in a Japanese context, 113th Annual Meeting of the American Anthropological Association, 2014年12月5日, Marriot Wardman Park Hotel (米国ワシントンDC)

Yuko Kawai, Feeling ethnic and thinking multiculturally: Learning empathy through ethnic minorities' visual self-representation, International Symposium "Feeling Ethnic", 2014年10月15日, Hong Kong Baptist University (中国香港)

河合優子、川端浩平、田中東子、山本敦久、渡会環、多文化共生と「交錯」の可能性、カルチュラル・スタディーズ学会大会 カルチュラル・タイフーン 2014、2014年6月29

日、国際基督教大学(東京都三鷹市)

[図書](計10件)

河合優子、井本由紀、川端浩平、工藤正子、高美智、田中東子、堀口佐知子、渡会環、交錯する多文化社会、ナカニシヤ出版(印刷中)
岩淵功一、河合優子、堀口佐知子、井本由紀、高美智、山本敦久、田中東子、渡会環、クリスティーン・ヤノ、川端浩平、原知章、<ハーフ>とは誰か、青弓社、2014、296(28-187, 222-242, 285-293)
川端浩平、ジモトを歩く、御茶の水書房、2013、282

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

河合 優子 (KAWAI, Yuko)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・准教授
研究者番号: 80384874

(2)研究分担者

川端 浩平 (KAWABATA, Kohei)

福島大学・行政政策学類・准教授
研究者番号: 80563965

高美智 (KO, Mika)

法政大学・社会学部・准教授
研究者番号: 00637465

田中 東子 (TANAKA, Toko)

十文字学園女子大学・人間生活学部・准教授
研究者番号: 40339619

鳥越 千絵 (TORIGOE, Chie)
西南学院大学・文学部・准教授
研究者番号：00599178

原 知章 (HARA, Tomoaki)
早稲田大学・人間科学学術院・准教授
研究者番号：00287947

山本 敦久 (YAMAMOTO, Atsuhisa)
成城大学・社会イノベーション学部・准教授
研究者番号：00453605

渡会 環 (WATARAI, Tamaki)
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：50584372

(3) 連携研究者

井本 由紀 (IMOTO, Yuki)
慶応義塾大学・理工学部・専任講師
研究者番号：90581835

工藤 正子 (KUDO, Masako)
京都女子大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：80447458

(4) 研究協力者

岩渕 功一 (IWABUCHI, Koichi)
Monash University・Asia Institute・
Professor

堀口 佐知子 (HORIGUCHI, Sachiko)
Temple University・Japan Campus・
Assistant Professor